琉球大学学術リポジトリ

農家のあとつぎと新卒者の動向
ー卒業生は一割も農業をしないー

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学農家政学部
	公開日: 2011-07-04
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 福仲, 憲, Fukunaka, Ken
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20930

農家のあとつぎと新卒者の動向

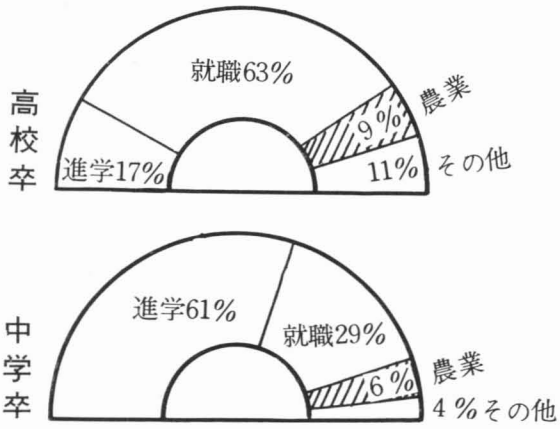
＝　卒業生は一割も農業をしない　＝

農村の慌しい動きの中で年々農村から都市へと若い労働力の流出はあとをたゝない。これは今後の農業の在り方に重大な影響を及ぼすだけでなく、あらゆる面から農村社会を大きくゆさぶる要因となり大方の注目をひいている。たとえば新しく学校を卒業した農家の子弟の大巾な流出によって、農業労働力の新たな補充ができずにおぢいチヤン・おばあチヤン・おかあチヤンによる「三チヤン農業」が現れたり、農家の長男の嫁さんが足りなかったり、ついには二、三男だけでなくあとつぎ（後継者）までも居なくなったり、また地方の伝統的な祭事、慣行までいつしか姿を変えてきている。

中学卒業者の数は戦後のベビーブームの頂点を反映して昨年を最高に次第に減少しつつあるが高校卒は中学卒のおよそ$\frac{1}{3}$で、農家の子弟の占める割合は大体中学卒で40％、高校卒で30％前後と推定されている。

※　卒業生のどれだけが農村に残るか。

卒業後の動向　（本土：昭和３８年）



新卒者の動向でまず注目されるのは進学する者であろう。（イ）総卒業者の大半を占める中学卒では６１％が進学し、農業就業者は僅かに6％（沖縄７％）、他に就職する者が２９％である。（ロ）他方高校卒では進学１７％と低くなり、農業9％（沖縄３％）、就職６３％と高くなって中学卒とはかなり違った傾向を示している（図およびⅠ表上段とⅡ表）。つまり最近の農業人口の減少と共に農村に残る者の割合も低くなり卒業生の一割すら農業をしない状態である。この傾向は沖縄では本土よりも著しく、農業就業率は高校卒よりも中学卒がかなり高く、本土と逆に農業労働力の質の低下を示している。

※　農村に残るのはだれか。

その農業就業者について内わけをみると、Ⅰ表（中・下段）から農家のあとつぎでは中学卒が１９％、高校卒が６４％とそれぞれ農村に残る割合が二、三男にくらべて非常に大きくなるがそれは高校卒の場合に特に著しい。

耕地規模でみると上層農家ほど中学卒では進学率が、高校卒では農業就業率が高くなる。そして１町５反以上の農家層では既に４０％は高校卒が占め、下層農ほほど高校卒の割合は低くなる。従って三チヤン農業や兼業農家は下層に多く、上層の専業農家になるほど高校卒のあとつぎを農村に残して労働力の質の向上をはかる傾向がうかがえる。

※　進学するのはだれか。

Ⅰ表：経営規模別の卒業者の構成（本土：昭和38年）

			卒業者総数	進学	就職	農業	その他
総数	計		100%	48.8	38.3	7.0	5.9
	中卒男女		〃	60.6	29.1	6.3	4.0
	高卒男女		〃	17.4	62.8	9.1	10.7
中学卒（男）	あとつぎ	3反	100%	59.5	33.0	1.2	6.3
		3－5	〃	59.7	33.3	3.8	3.2
		5－10	〃	64.6	23.3	9.0	3.1
		10－15	〃	69.9	12.5	16.1	1.5
		15反以上	〃	74.2	5.4	19.5	0.9
	二、三男	3反以	100%	55.8	36.5	1.2	6.5
		3－5	〃	54.0	39.1	2.4	4.5
		5－10	〃	54.8	35.9	5.2	4.1
		10－15	〃	58.9	32.0	6.1	3.0
		3反以下	〃	64.3	22.3	10.2	3.2
高校卒（男）	あとつぎ	3反以下	100%	28.2	54.6	3.1	14.1
		3－5	〃	23.6	58.8	7.9	9.7
		5－10	〃	19.1	56.3	14.5	10.1
		10－15	〃	16.8	49.4	26.2	7.6
		15反以上	〃	12.8	20.0	64.3	2.9
	二、三男	3反以下	100%	30.3	54.0	1.8	13.9
		3－5	〃	21.9	65.2	2.2	10.7
		5－10	〃	18.4	68.1	3.0	10.5
		10－15	〃	19.3	67.0	5.2	8.5
		15反以上	〃	12.4	68.1	11.4	8.1

Ⅰ表から進学者についてみると、（イ）中学卒では上層農の子弟ほど進学率が高いがあとつぎである長男は更に高くなり、特に1町5反以上の上層農では74％と大半が進学している。それほどではないが全く同じように農業就業率も上層農なかんづくあとつぎほど高い率を示し、逆に就職率は上層農ほど先細りに低くなり1町5反層以上のあとつぎでは僅か5％に過ぎない。（ロ）高校卒の場合には中学卒と異り上層農ほど進学率は低く、これに代って農業就業率が特にあとつぎで高くなり、1町5反層以上では64％できわめて特徴ある傾向を示している。

このように上層農で中学卒のあとつぎの進学率が高いこと、高校卒のあとつぎの農業就業率が高いことは深い関連をもっており、上層農はあとつぎを出来るだけ高校へ進学させている。これは経済力が一般に高いこと、同時に農業近代化のために農業者の資質の向上を強く要求されているからであり今後ますます強くなるものと思われる。

Ⅱ表：新卒者の農業就業者および就業率（沖縄）

（中学卒）

	1959		1960		1961		1962		1963	
総数	2.235人	14.0%	1.586人	11.5%	1.145人	11.1%	1.035人	8.0%	1.768人	7.4%
男	1.375〃	13.7	1.010〃	14.2	702〃	13.1〃	662〃	10.0〃	1.208〃	10.0〃
女	860〃	11.2〃	570〃	8.5〃	443〃	8.9〃	373〃	5.9〃	560〃	4.8〃

（高校卒）

総数	491人	9.9%	485人	6.4%	478人	5.7%	331人	4.0%	202人	2.6%
男	340〃	8.1〃	403〃	9.6	331〃	7.4〃	242〃	5.5〃	179〃	4.4〃
女	151〃	5.1	82〃	2.4〃	147〃	3.6〃	89〃	2.3〃	23〃	0.6〃

Ⅲ表：農林高校卒業者と農業就業者および就業率（沖縄）

	総数			男			女		
	卒業者	農従者	割合	卒業者	農従者	割合	卒業者	農従者	割合
1958	978人	312人	31.9%	718人	284人	39.6%	260人	38人	14.6%
1963	1.162〃	147〃	12.7〃	770〃	138〃	17.9〃	392〃	9〃	2.3〃

※ 沖縄の農家のあとつぎは……。

本土の農家のあとつぎは高校卒に比重が移り農業労働の質の向上が技術の発展に大きく反映しているが、Ⅱ・Ⅲ表から沖縄のあとつぎをみると農業就業率は本土より小さく、その割合は中学卒の方が高いのも対照的な傾向である。農林高校の卒業者ですらⅢ表のように農業就業者は年を追って減少し僅か13％に過ぎない。そこらで我々は農村の実状なり産業教育の在り方をも検討する必要はないだろうか。（福仲憲）